

令和 8 年度 第 1 回大口町保育所運営委員会 会議録

開催日時	令和 8 年 7 月 3 日（金）午後 1 時 3 0 分より
開催場所	健康文化センター 1 階 機能回復訓練室
出席者名	議会議員代表 3 名 民生委員・児童委員代表 3 名 私立保育園法人代表 1 名 保護者代表 8 名 事務局 9 名
次 第	1 自己紹介 2 委員長選任について 3 協議事項 (1) 令和 8 年度保育所運営費の概要について（資料 No. 1） (2) 令和 8 年度の保育所運営について ・園児数（資料 No. 2） ・年間計画（資料 No. 3 - 1 ～ 3 - 5） (3) 各保育園の取り組みについて 保育園パンフレット（資料 No. 4 - 1 ～ 4 - 4） (4) 南保育園建設について (5) 保育園、幼稚園の給食について 4 その他

（進行：こども課長）

	1 自己紹介 2 委員長選任
--	-----------------------

（進行：委員長）

事務局	3 協議事項 (1) 令和 8 年度保育所運営費の概要について（資料 No. 1） 支出総額：1 1 億 6, 2 5 3 万 4 千円 収入総額： 2 億 8 2 7 万 8 千円
-----	--

差引額=町負担分：9億5425万6千円

(支出について)

- ・報酬、給料、職員手当等、共済費、旅費は、職員にかかる経費になる。
- ・需用費は保育や給食用の消耗品費、給食の食材に係る経費等になる。また、前年度7月から始まった、未満児のおむつの全額公費負担での提供分もここに計上している。
- ・役務費の主なものとしては、保育士の確保を目的に、人材紹介会社を利用し、ての採用を予定しており、採用となった場合には、推定年収に紹介料を乗じた手数料を支払うために計上している。
- ・委託料の主なものとしては、社会福祉法人 宝光福祉会が運営している大口中保育園に対し、人件費や運営に係る事業費・管理費を支払うための民間保育所運営費委託料、および公立保育園3園の施設管理のための各種保守点検委託料等が計上されている。
- ・使用料及び賃借料は、令和5年10月に導入した『保育園業務支援システム(Kids plus)』利用のための月額利用料等が計上されている。
- ・公有財産購入費と備品購入費は、南保育園用の用地や現在故障しているものの取り換えや買換え用費となっている。
- ・工事請負費と備品購入費は、現在故障しているものの取替えや買換え費用等が計上されている。
- ・負担金補助金及び交付金の主なものとしては、大口中保育園の人件費に対し、委託料で賄いきれない部分を補助する民間保育所補助金等が計上されている。

(収入について)

主なものとしては、幼児教育無償化や大口中保育園に係る経費や工事費の補助など、国や県からの歳入が1億5,599万9千円、保護者の皆様にお支払いいただいている保育料が4,413万4千円、延長保育を利用される方が支払う延長保育料や休日保育の利用料等が814万5千円となっている。

一人あたりの費用額は、令和8年4月1日現在の園児数を基に年間利用延べ人数を出し、支出総額を延べ人数で割ったものであるが、1人当たりの月額が17万5,186円となり、そのうち町負担分が14万3,800円で全体の82.1%を占めている。保護者の皆様にお支払いいただいている保育料が6,651円で全体の3.8%となっている。

保育長	(2) 令和8年度の保育所運営について 今年4月より北保育園にて「こども誰でも通園制度」が始まった。7月1日現在、13件の面談があり、登録へととなっている。実際に利用している方は現在8世帯で、延べ人数として、4月は1人、5月は6人、6月は24人と徐々に利用者が増えてきている。利用する時間は1～2時間が多い。利用者は、大口町・扶桑町・江南市など近隣市町の方の利用もある。最初は泣いていた子どもたちも、保育士に慣れ、落ち着いて遊ぶ姿が見られる。 園児数の説明（資料No.2） 令和8年6月1日現在の園児数は、定員790名のところ、560名のお子様をお預かりしている。内訳として、南保育園113名で7クラス、西保育園184名で11クラス、北保育園131名で8クラス、大口中保育園132名で9クラスの運営をしている。今後、育児休業明けで仕事復帰をされる方など、途中入所のお子様を34名お預かりする予定になっており、合わせて、年度内594名の園児数になる予定である。転入や就労でお問い合わせいただいたお子様についても、毎月の入園審査会を経て、保育の必要性を認定し、入園案内をさせていただく。 職員数については、南保育園は34名、西保育園は57名、北保育園は47名、大口中保育園は41名で保育を行っている。園長、副園長、クラス担任保育士の他に、加配保育士、週休・休憩対応などの保育士、調理員、管理栄養士、看護師、事務員も必要に応じて配置しており、大勢の専門職員で大切なお子様をお預かりしている。 年間計画の説明（資料No.3-1） 入園進級式でお配りした「ことしのあゆみ」に、主な行事が載せてある。 保護者の方に参加いただくものには○印がつけてある。町立保育園は、行事の見直しを行い、昨年度まで5月に年中・年長児の保育参観、6月に3歳以上児の音楽発表会を行っていたが、3歳以上児の保育参観を6月に行った。音楽発表会の代わりに、保育参観の中で音楽遊びを行った。5月21日に全園児引き渡し訓練をアプリ配信で行った。大勢の保護者の方にご協力をいただき、年々保護者の方の訓練への関心が高まっていることを感じている。1月下旬にもう一度行う計画を立てているので、アプリ配信後のお子さんの迎えのシミュレーションをご家庭でも行っていただけたらと思う。7月から8月にかけて水遊びを行う。プール遊びの開始は例年通りだが、気候を見て水遊びの時期は早めに行っていく。10月に運動会を行う。2月に3歳以上児の保育参観を計画している。3月のお別れ遠足では、花見橋から五条川の乗船体験を行う
------------	---

南保育園 園長	予定である。 「毎日家庭で行える子育て3か条」と、右側の「園生活の一日の流れ」が、下段に載せてある。 各保育園別の年間計画（資料No.3－2から3－5） 保護者の方に4月末に配信した保育園別の年間計画である。予定を立てるときに利用していただきたい （3）各保育園の取り組みについて 南保育園（資料No.4－1） 南保育園は、7月現在3歳未満児34名、3歳以上児79名、合計113名のお子様をお預かりしている。 子ども像を「豊かな心と丈夫なからだでよく遊ぶ子ども」とし、年齢に合わせた保育目標を掲げて活動を展開している。大勢の友達と集団生活を送る中で、遊びを中心とした心を動かす様々な体験を通して、豊かな心と丈夫なからだを育むことを目指している。園舎は、田畑に囲まれ、四季折々の自然を身近に感じられる環境の中にある。先月は、近隣の農家の方に、田植えの様子を間近で見せていただいた。子どもたちは、目の前で大きな田植え機を操作する農家の方の姿に目を輝かせながら、「かっこいい～！」と言って、大きな拍手をしていた。最近では、農道散歩に出かけると、子どもたちは田んぼをのぞき込み、かえるやおたまじゃくし、ザリガニ探しを楽しんでいる。この恵まれた自然環境を活かし、子どもたちが様々な体験を通して、仲間の中で育ち合える場でありたいと考えている。また、家庭との連携を大切にして、一緒に子育てできるような保育園づくりを目指している。 SDGsを意識した活動について、南保育園では「郷土を愛する心を育む」保育活動を大切にしている。保育園の近くには歴史的文化財などもあり、大口町歴史民俗資料館の学芸員を招いて、映像や写真を見せてもらいながら、南部地域にまつわる話を聞き、後日、実際に現地に出かける活動を行っている。また、園周辺の農道を散策し、草花や生き物などの自然物たくさん触れて、子どもたちの好奇心や興味が膨らむような活動も行っている。その中で、子どもが印象に残ったことを絵で表し、子どものつぶやきと組み合わせ「郷土愛かるた」を作成している。「郷土愛かるた」で遊ぶことで、訪れた場所や出来事を思い出し、大口町の良さを感じてほしいという思いで進めている。子どもたちが大口町を好きになり、「大口町って素敵だな」「大口町にずっと住んでいたいな」という気持ちが育ってくれることを願っている。
------------	--

南保育園 父母の会会長	地域交流については、地域の老人クラブの方に保育園に来ていただいたり、一緒に散歩に出かけたりしながら交流を深める中で、SDGsを意識した保育活動を知っていただく機会も設けている。今年度も、5月に豊田地区の堀尾さくら会の方々と一緒に堀尾跡公園や八剣社に出かけて、学芸員から裁断橋物語について話を聞いたり、散策を楽しんだりした。道中、子どもの見守りをサポートしていただき、安全面でのご協力もしていただいた。今後は、大屋敷地区・秋田地区の老人会の方とも交流を計画している。保育園が、地域の方にいつでも気軽に来ていただけるような場所となり、地域の方に気にかけていただけるような存在となるよう、地域の方との関わりを大切にしていきたいと考えている。 南食育サポートの方との食育交流事業については、南食育サポートの方にご指導をいただきながら、園の畑で野菜を栽培している。現在は、毎日のように、子どもたちがきゅうりやなすなどの夏野菜を収穫している。収穫した野菜は、調理員に調理してもらい、給食でいただいている。新鮮な野菜のおいしさを味わうと共に健康な体づくりにもつながっている。また、水やりや草抜きなどの世話も経験している。育てる大変さを感じることで、食べ物大切さがわかり、食に関わる全ての人に対して「感謝の気持ち」がもてるようにと考えている。 体力づくりについては、園庭には、鉄棒、登り棒、ジャングルジム、雲梯、リングハング、ブランコ、滑り台など、たくさんの固定遊具があり、いつでも遊べる恵まれた環境にある。固定遊具を使って遊ぶことで、握る、登る、ぶら下がる、支える、跳び下りなどの全身運動を通して、体幹やバランス感覚、空間認知力が養われる。日常の中で自然と繰り返し挑戦し、主体的に体を動かして楽しむことで、達成感や自己肯定感が育まれ、丈夫な体づくりにつながっている。 木育活動については、木に触れ、木で作り、木で遊ぶ「木育」を通して、子どもたちの心と体を育んでいる。園庭には桜や藤、イチョウなどがある。木の様子を見て四季の変化に気づいたり、見つけた木の実・枝・葉などの自然物を使って製作したりすることで、木に親しんでいる。年中児は、親子でマイ箸づくりを経験し、保護者に向けての発信も行っている。 今後も、保育園と地域、家庭との連携を大切にして、地域と共に子育てできる保育園づくりをめざしていく。 南保育園 父母の会の取り組み ・フォトレコ写真販売 撮影は、年間で12回の予定。七夕会、夏祭り、南食育サポートとの活動、
------------------------	--

西保育園
園長

野菜の収穫、芋掘り、柿狩りなど。

- ・お楽しみ会のイベントは年４回。いのちの学校、夏祭り、名古屋経済大学 学生サークル「こんぺいとう」など。
- ・プレゼントは年３回。夏祭り、クリスマス会、年度末。
- ・絵本の読み聞かせ活動（友ちゃんズ）は、６月～３月まで行う。

西保育園（資料 No. ４－２）

西保育園は、７月現在、３歳未満児６６名、３歳以上児１２１名、合計１８７名のお子様をお預かりしている。４月に入園したお子さんも保育園生活に慣れ、笑顔で登園している。また、在園児も進級してひとつ大きくなったことを喜び、新しい環境にも慣れて元気に過ごしている。

梅雨の時期に入り、気温や湿度が高くなって、体調を崩すお子様も見られる。手足口病やヘルパンギーナなどの感染症の流行など、心配なこともあります。健康・安全に留意しながら保育を行っている。

食育、木育、体力づくりを主な取り組みとし、それぞれの年齢の発達に応じた保育活動を行っている。その中で、子どもたちの気持ちに寄り添いながら、様々な経験を通して豊かな心を育む保育を目指している。

食育では、地域の食育サポートの方々と一緒に園舎東にある畑「西保ファーム」で野菜作りをしている。苗植え、水やりや草取り、収穫など体験することで、野菜がどのように育ち、実をつけるのかを知り、食への関心を広げている。年長児による園内放送「給食Ｇｓ」では、畑で収穫した野菜や食材の紹介をしたり、給食の残食量を知らせている。残食ゼロの日は保育園中がお祝いムードとなる。日々の食育活動が「食に対する感謝の気持ちを育み、給食の残食を減らす」といった、ＳＤＧｓを意識した活動として継続されている。

木育では、西保育園の未満児園舎や回廊が木造で建てられているので、日ごろから木のぬくもりを感じ、木に親しみをもって過ごしている。近くの白山ふれあいの森にはよく散歩に出かけ、季節ごとに木々の変化を楽しみ、色々な木に触れたり、自然物を使ったりして遊んでいる。また、年中児親子で行う「マイ箸づくり」では、子どもの手の大きさに合わせて、世界で一つのマイ箸を作る。子どもたちが木の香り、感触、音など五感を使って感じ、体験する中で自然や人の命を大切にする心を育んでいく。

体力づくりでは、芝生園庭や園庭にある大小２つの山を駆けあがったり、降りたりすることを楽しみ、広い回廊では様々な運動器具を使い全身を使った運動遊びを行うことで、持久力や体幹が育っている。また、未満児も散歩や歩道橋の階段を昇り降りするなど年齢や子どもの様子に応じた体力づくりを行い、柔軟な体、心身のたくましさを養っている。

	その他にも、「人とのかかわり方を学び、社会性や協調性、思いやりの気持ちを育む」をねらいとした、異年齢児交流を行っている。普段の生活や遊び、季節の行事の場面で様々な年齢間の交流がもてるよう計画し、取り組んでいる。 また、郷土を愛する心を育む活動として、余野地区にある「山姥物語」や「白山ふれあいの森古墳群」について歴史民俗資料館の学芸員より話を聞いたり、現地に行ったりする中で、身近な町の歴史を知ること、自分の住んでいる町、大町に関心や愛着が持てるようにしていきたいと思っている。今後も地域や保護者の皆様の力を借りながら、地域、保育園、家庭が一緒になり、ともに子育てをしていきたい。
西保育園 父母の会会長	西保育園 父母の会の取り組み ・保護者有志による「いのちの話」年長児・年中児 ・夏祭り（魚釣りゲーム） ・有料イベント・無料イベント各1 ・フォトレコ写真販売 ・プレゼント（夏祭り、運動会、クリスマス、卒園・進級）
北保育園 園長	北保育園（資料 No. 4－3） 北保育園は7月現在、3歳未満児41名、3歳以上児 94名、合計 135名のお子様をお預かりしている。今年度が始まって3か月が過ぎ、子ども達は園生活にも慣れ元気に過ごしている。先月は、3歳以上児が保育参観を行い、保護者の方に子どもたちの園生活の様子を見ていただいた。 体力作りでは、芝生の園庭で、体を十分に動かす全身運動、走ったり跳んだりして足腰を鍛えることを目標に取り組んでいる。固定遊具がなくて心配される手や腕を使うこと（握る・引っ張る・支える・押すなど）も、広い回廊や室内を使い、遊び方を工夫しながら意識して取り組んでいる。また、散歩に出かける機会を多く持てるように計画している。体力が養われるだけでなく、交通ルールを学んだり、虫や草花にふれたり、自然の中で豊かな感性や探求心も育てていく。 食育では、きたきた食育サポートの方と一緒に、保育園の畑で野菜を育て、収穫し、給食に取り入れている。「育てる」「収穫する」「食べる」という食と農の体験を通して、「育てることの大変さ」「収穫・食べる喜び」「人や食べ物への感謝」など、子どもたちの豊かな心を育み、生きる力につながるよう取り組んでいる。夏野菜の収穫がはじまり、旬の野菜を給食に入れて美味しく

	いただいているこの頃である。 木育では、木に触れ、木で遊び、木で作る取り組みを通して、子どもたちの健やかな成長を促し、人や物に対して思いやりの心や命の大切さを育てていく。園舎が木造で、より木に親しみを感じて過ごしている。日頃から自然物を使って遊んだり、積み木、カプラなどの木製の玩具を使って遊んでいる。月に1度「もくもくの日」として地域の方と一緒に遊び、ふれあう機会を設けている。 地域交流では、ふれあい交流会「あやとり」の方々と交流の機会を設けている。先ほど説明した食育、木育でも地域の方にはお世話になっている。交流を続け、気軽に保育園に足を運んでいただける関係を作り、子ども達には人を思いやる心、人に親しむ心が育つよう取り組んでいく。 SDGを意識した保育活動は継続している。園舎の建設から9年が経ち、木造ならではの傷みも出てきた。机や椅子がささくれや毛羽立ってきているので、紙やすりを掛けて直す中で、「傷んだところは直す」「園舎を大切にする」気持ちを持てるようにしている。今年度は、ふれあい交流会や地域の方の力を借りて、園舎のメンテナンスをしていく計画をたてている。また園庭にあるビオトープは、手入れをしていた職員の様子をみていた子どもたちが、草取りを手伝ってくれるようになった。水がさらさらと音を立てて流れる水音は、気持ちが落ち着く。植物や生き物との触れ合いも通して、自然の大切さや環境への意識の高まりも目指していきたい。 今後も、子どもたちと地域、保護者、保育園がつながり、一緒になって子どもを育てていきたい。
北保育園 父母の会会長	北保育園父母の会の取り組み ・写真販売 フォトレコ ・プレゼント 夏祭り、運動会、クリスマス、卒園・進級 ・イベント 夏祭り出店 お楽しみ会 ・森の積み木広場 エコキャップの回収（全園児） アルミ缶回収（父母の会・職員） ・イチゴ畑の管理 イチゴの世話、草取り、ネットはり
大口中保育園 園長	宝光福祉会大口中保育園 （資料No.4－4） 大口中保育園では、7月1日現在、以上児96名・未満児37名の園児をお預かりしている。保育形態として、「遊び中からの学び」を保育の柱として、

一人ひとりの主体性を大切にする保育を行っている。パンフレットに、コーナー遊び、「遊びのミュージアム」の紹介とあるが、子ども達が主体的に生活でき、自分からやりたいこと・好きな遊びを見つけ、意欲的に取り組むことができるように保育室や園庭に色々なコーナーを設置し、自分で活動を選べるように工夫している。

保育園の主な年間行事については、今年度も運動会や生活発表会、保育参観などの保護者の方にも参加してもらうイベントから、子どもたちに伝統や季節の移り変わりを伝える行事、また、異年齢で関りながら一緒に楽しめるイベントなどの取り組みを計画した。

その他に、園の周囲には、五条川遊歩道、小口城址公園・多世代が集う憩いの場など、自然が豊富にある。園では主に、晴れた日には、積極的に散歩に出かけたり、戸外遊びを楽しみ自然に触れる機会を出来るだけ多く取り入れた活動を心がけている。

大口中保育園の一番の特色は、体力作りである。年齢の発達に合わせて、毎朝のサーキット遊びや体育専門の講師による運動遊びを取り入れ、健康な身体作りと体を動かす楽しさを味わう。「やってみたい」「できるようになりたい」と思えるように導き、「できた」という達成感・満足感を自信へと繋げていく。運動は苦手だな…と感じる事がないような取り組みや言葉掛けに配慮し、誰でも楽しく参加できるようにしている。可動式の遊具を取り入れ、戸外はもちろん、室内でも数台の鉄棒・平均台・跳び箱などを組み合わせ、様々な運動遊びを楽しんでいる。

食育活動については、食べることは生きることの基本である。そのため、まずは「楽しく食べること」が大切だと考えいる。季節の食材に触れること、料理を作る人と関わることを通して、食への関心を高める活動も行う。年長児は、ひとり一鉢「プチトマト」を、園庭の隅に設置してあるプランターでは夏野菜、ピーマン・オクラ・ナスなどを育て、収穫を楽しんでいる。また、畑では 6 月にさつま芋の苗植えをし、10月の収穫を楽しみに水やりや草取りなどの世話を行っていく。食育クッキングでは、自分たちで育てた野菜を使う経験を通して、食べる事の大切さや感謝の気持ちを育んでいる。

その他に、畑の栽培や花壇の花植え等、さまざまな活動を通して、地域の方々と交流を行っている。ふれあいの場を設けることで、支えあう地域づくりを学び、思いやりの気持ちを育んでいる。

行事があった日は、「ホットニュース」として降園時に保護者向けに写真で紹介している。ホームページは、月1回更新しているので、ご覧いただきたい。

課外活動として、遊戯室でダンス教室や体操教室を行っている。昨年の秋から、バルシューレ教室も始まり、園からそのまま教室に通えたり、延長時間

	内に終われることで、保護者の方から好評である。 その他の事業として、一時預かり事業を行っている。保護者の方のリフレッシュ、就労や就活、通院する為などの理由で利用いただいている。 子ども達が様々な事を経験して自信へと繋がり、わくわくする気持ちやチャレンジしたいという気持ちを大切に見守りながら、一緒に心地よい時間を過ごしていきたい。
大口中保育園 父母の会会長	宝光福社会大口中保育園 父母の会の取り組み ・ 5 / 1 9 (火) バザー開催 (スモック、昼寝用風呂敷、絵本) ・ 6 / 1 8 (木) ~ / 1 9 (金)、6 / 2 2 (月) ~ / 2 3 (火) 資源回収実施 ・ 近隣企業へ協力依頼を行い、5社より資源提供の協賛あり ・ 園児よりお礼のお手紙 (写真付) でお渡し予定 ※7月下旬頃 ・ 8 / 5 (木) <有料>イベント (アート) ・ 1 2 / 2 5 (金) <無料>丹羽高校 吹奏楽部によるクリスマスコンサート ※以上児のみ ・ 1 / 中旬頃 <無料>ダッシュマンイベント ・ その他 通期イベント「Lean 先生の英語の読み聞かせ」: 6, 8, 1 0, 1 2, 2 月
事務局	(4) 南保育園建設について 今後のスケジュール 現時点での予定である。 令和8年度 南保予定地の用地取得 基本設計 令和9年度 実施設計 令和10年度 工事着工
西保育園 父母の会会長	南保育園はどこに建設されるのか
事務局	既設の保育園の南側の水田2枚を購入し、その中で建設をする予定である。どこに建てるのかは基本設計で決める。園児に負担がかからないように、今の園舎を残したままの状態为建设していく予定である。

事務局	(5) 保育園、幼稚園の給食について 近年の食材価格上昇等を踏まえ、給食の質・量を維持し、安全・安心な給食提供を継続するため、給食費単価を見直すものである。なお、見直し後も町として実施している無償化（公費負担・補助）を継続し、対象となる保護者負担が生じない運用とする。 給食費（主食費・副食費）の経緯は、主食費は、平成 22 年度から月額 650 円で無償化を実施してきた。副食費は、令和元年度の幼児教育・保育の無償化のタイミングで月額 4,000 円の単価を設定し、子育て支援として単価を据え置いてきたが、令和 7 年度から無償化を実施している。 見直しの趣旨については、公立保育園の給食費は、子育て支援として単価を据え置いてきたが、近年の食材価格上昇等により、町立保育園の給食賄い材料費の実績が、現在設定している給食費単価（主食費・副食費）を上回る状況が生じている。今後も価格上昇が見込まれる中、給食の質・量を維持し、安全・安心な給食提供を継続するため、単価の見直しを行う。 現行の設定額と無償化の取扱いについては、公立保育園は、主食費 650 円、副食費 4,000 円で、いずれも公費負担による無償化である。民間保育園・幼稚園等については、主食費 650 円、副食費 4,900 円で、国・町の補助金で無償化しており、補助上限額である。 公立保育園の給食賄い材料費の推移（実績）は、園児 1 名あたり月額で、令和 5 年度は主食 517 円、副食 4,620 円。令和 6 年度は主食 493 円、副食 4,278 円。令和 7 年度は主食 625 円、副食 5,063 円となっている。なお、令和 6 年度の副食費が一時的に低下しているのは、食材納入業者を変更した影響である。また、直近の比較として、令和 7 年度 4～5 月と令和 8 年度 4～5 月の実績を比べると、主食費は 602 円から 695 円で、プラス 15.4%、副食費は 4,726 円から 4,831 円で、プラス 2.2%となっている。 見直しが必要な理由は、1 点目として、令和 8 年度 4～5 月の実績が、現行単価を上回っている。主食費は実績 695 円で現行 650 円を上回り、副食費も実績 4,831 円で現行 4,000 円を上回っている。2 点目として、今後の価格上昇リスクへの備えが必要である。令和 8 年度 4～5 月分は、主食・副食とも令和 7 年度より上昇している。加えて、国の消費者物価指数でも、食料は前年同月比でプラス 3.5%上昇していることが確認されている。また、帝国データバンクの調査においても、令和 8 年度後半以降の値上げが見込まれており、現行単価の据置きでは給食の質・量の維持が困難となる可能性がある。 見直し額の算定の考え方は、主食費については、令和 7 年度産の米から価格が上がっていることを踏まえ、直近の増減率であるプラス 15.4%を用いて算出
-----	--

	する。副食費については、CPI はプラス 3.5%ですが、保育園給食の仕入れ実績を優先し、直近の増減率であるプラス 2.2%を用いて算出する。今後も価格の見直しを行う前提である。具体的には、令和 7 年度の給食賄い材料費に増減率を乗じ、主食費は $625 \text{ 円} \times 1.154 = 721 \text{ 円}$、副食費は $5,063 \text{ 円} \times 1.022 = 5,174 \text{ 円}$となる。その上で、子育てをする保護者負担軽減を考慮し、主食費は 1 円、副食費は 74 円を減額し、改定案の金額としている。 改定内容については、適用時期は令和 8 年 9 月からである。まず公立保育園は、主食費を 650 円から 720 円へ、副食費を 4,000 円から 5,100 円へ改定する。次に民間保育園等の補助上限額は、主食費を 650 円から 720 円へ、公立と同水準に整理する。副食費を 4,900 円から 5,100 円へ、国の補助上限額に合わせる。 近隣市町との比較ですが、令和 8 年度の公立保育園の額で比較すると、大口町は改定後、主食 720 円、副食 5,100 円となる。近隣では、江南市が主食 1,000 円・副食 5,000 円、岩倉市が主食 800 円・副食 4,900 円、扶桑町が主食 1,000 円・副食 4,880 円となっており、本町の改定後の水準は、周辺と比較して一定の整合が取れる水準と考えている。 保護者負担については、町立保育園および民間保育園・幼稚園等に係る給食費について、無償化（公費負担・補助）を継続し、保護者負担が生じないようにする。 スケジュールとしては、令和 8 年 7 月 1 日に行政経営会議、7 月 3 日に保育所運営委員会、7 月 16 日に文教福祉常任委員会協議会、8 月に保護者へ改定のお知らせを行い、9 月から給食費改定を適用する。 今後の価格改定については、主食費・副食費ともに、今後の実績を踏まえ、令和 9 年度に再改定を検討する。以降も毎年度、実績を踏まえて改定の検討を行う。 5 その他
大口中保育園 父母の会会長	物価高騰に伴い父母の会費の値上げをしたいが、どうしたらよいか。
保育長	公立 3 園は統一が必要だが、大口中保育園は何年か前に 200 円から 250 円に値上げをしており、単独である。役員内で検討、全保護者に提示し、承認を得て決定してもらえばよい。
北保育園 父母の会会長	父母の会は、園で行事があると、保育園にお邪魔して写真の撮影を行ってい

	る。行事の写真は撮れるが、日常の様子が撮影できない現状である。園側がドキュメンテーション等に使っているような写真を父母の会に共有、販売することは可能か。
保育長	父母の会のご意向は理解した。検討後、返答する。
北保育園 父母の会副会長	台風時の対応について、現状午前9時30分を境に弁当持参の有無が決まる内容になっている。警報が解除された場合、急に弁当持参でと言われても困る。前日に決定することはできないか。
保育長	保護者のご意見は理解した。検討後、返答する。
	閉会の挨拶